

# 歴史まちづくり活動 概要シート

<b>ブロック名</b>	<b>建築士会名</b>	<b>支部(地域会)名</b>
東海北陸	(公社)静岡県建築士会	
<b>活動団体名①</b>		<b>代表者連絡先</b>
静岡県ヘリテージセンターSHEC		<b>住所</b> 静岡市葵区御幸町9-9
		<b>TEL</b> 054-254-9381
<b>活動団体代表者名</b>		<b>FAX</b> 054-273-0478
センター長 塩見 寛		<b>E-mail</b> honkai@shizu-shikai.com omikan@cy.tnc.ne.jp

<b>活動名</b>	<b>歴史まちづくりネットワーク構築検討調査</b> 平成24年度 歴史的風致維持向上推進等調査(国交省)
------------	--

**調査の目的**

歴史的建造物は、その地域に生き続けてきた貴重な資産  
歴史的建造物保全・活用を図り、個性あるまちづくりに活かしていく

住民(建物所有者等)、専門家(建築士、職人)、行政がそれぞれの役割を理解し、連携して取り組むことが必要

連携のしくみ  
ネットワークの構築  
静岡県ヘリテージセンター  
ネットワーク構築のガイドライン  
平常時・非常時における対応マニュアル

**実施内容**

住宅、併用店舗、旅館、蔵、寺院、教会、病院等 27 件  
大工8、左官9、瓦4人

地域文化財専門家・育成研修で発見した 717 件：  
市町別リスト化  
建物概要データベース化 (A4-1枚)

職人職能団体  
ヒアリング  
リスト化データベース化  
行政 県・市町  
ヒアリング  
保全活用協議会

ワークショップ  
大工・左官・瓦職人+建築士のWS  
・ネットワークあり方  
・取り組み可能性

県+6市・建築・景観・文化財の担当課  
・SHECの全体像  
・平常時、非常時の対応マニュアル

ネットワークをひろげる  
●住民 → 所有者の声、所有者の意向把握、身近な建築士が見守る  
●職人 → 日常的に存在を認知し、価値情報等を共有化、職人力を生かす  
●行政 → 歴史的建造物の保全活用協議会の継続、平常時・非常時の共有

身近な歴史的建造物を見守る  
●建築士と所有者が日頃から話しをし、「顔見知り」の関係になって見守っていく

まちづくりにつなげる

**調査の結果**

**平常時**

- ①行動について行政との共有
- ②非常時連絡網(ネットワーク体制図)作成
- ③歴史的建造物リスト&マップを県・市町へ提供
- ④職人・職能組合との協定書
- ⑤職人リストと非常時連絡網
- ⑥歴史的建造物の被災調査の判定基準
- ⑦被災歴史的建造物の応急措置マニュアル

・広報PR  
・一般市民へのSHECのPR  
・市民向けの啓発活動  
・所有者への理解

**静岡県ヘリテージセンターSHEC**

**1次対応**

- ・被災の状況等の情報収集
- ・2次対応できる構成員の確認
- ・市町の被災建築物応急危険度判定の実施状況把握

**2次対応**

- ・地域ごとチーム編成し被災状況の調査
- ・被災した歴史的建造物について、被災判定基準(別途)に基づき実施
- ・文化財等救済支援員と連携

**3次対応**

- ・歴史的建造物の被災に対する応急措置を検討
- ・職人が必要な場合、同行を要請
- ・指定文化財等の応急措置に関して県市町教委に協力

実施プロセスの組織化・システム化  
ワンストップ窓口

個性あるまちづくりにつなげる  
復興まちづくりにつなげる

<b>活動の起因</b> (きっかけ)	地域文化財専門家(ヘリテージマネジャー) 育成研修				
<b>地域貢献度</b>	○				
	大変貢献している	少し貢献している	どちらともいえない	余り貢献していない	殆ど貢献していない
<b>活動団体②</b>	(主たる活動団体)		(協力活動団体)		
<b>建築士会関係度</b> (建築士会単独=100%)	○				
	100~80%	80~60%	60~40%	40~20%	20~0%
<b>その他</b> (展望・課題)	平常時及び非常時の対応マニュアルの徹底				

※地域貢献度・建築士会関係度は独自の判断で結構です。(該当箇所)に○印)

- ・上段の活動団体名①は、建築士会名ではない活動専用の名称がある場合の名称です。
- ・下段の活動団体②は、主に活動している組織名と、共に実践している協力組織がある場合にはその名称をご記入ください。
- ・1案件につき本シート1枚で整理して頂けます様お願いします。